独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター 広報誌

菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER

No.65
令和8年秋号


八重の棚田と桜島


すすき


不動山 青隆寺の紅葉の風景


コスモス畑

理念

患者さまにやさしく、
地域に信頼される
良質な医療の提供をめざします。

運営方針

1 がん診療の治療の向上をめざします。
2 成育医療の充実をめざします。
3 救急医療の充実をめざします。
4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。

当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。
たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。
緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。

contents

P.2 令和8年熊本地震への医療班の活動を通して
P.3 令和8年熊本地震 医療班派遣活動報告
P.4 指宿医療センター × 指宿南九州消防組合
P.5-6 令和8年度新人・職員合同研修会を開催しました
P.7 指宿 菜の花通信
P.8 外来診療担当医一覧

令和8年熊本地震への医療班の活動を通して
八代トヨオカ地建アリーナにおける医療支援

指宿医療センター　看護師長　簑部　町子

令和８年７月２８日に起こった熊本地震の医療班として、８月 12 日から 14 日の３日間、熊本県南拠点である八代市で活動を行いました。地震発生から２週間程経過していましたが、災害医療コーディネーターが中心となり、災害派遣医療チーム（DMAT）をはじめとする多くの支援団体が協働・調整が行われていました。どこに避難所が設けられ、何名避難者がいるのか、環境はどうかという調査結果が共通のフォーマットに入力され、情報が整理されていました。

当院は､「八代トヨオカ地建アリーナ」にて活動を行いました。約 300 名の避難者が生活しており、多職種・多機関と連携しながら医療支援や生活環境の改善に取り組みました。活動では、体調不良者への看護をはじめ、感染症対策やエコノミークラス症候群予防の体操、避難所環境のアセスメントを実施しました。また、心理的負担を抱える避難者への声かけや傾聴を行い、必要に応じて専門チームへつなぐなど、心のケアにも取り組みました。

さらに、医療支援だけでなく、行政職員や施設管理者と協働し、衛生環境の改善や物資調整について具体的な提言を行い、医療支援だけでなく、生活環境を整えることや多職種による支援体制の構築が重要であることを実感しました。

今回の活動を通じて、災害時には多くの専門職が連携し、限られた資源の中で支援するために、それぞれが持つ専門性を発揮し協働することを学びました。また、避難者支援は「避難所での生活支援」だけでなく､「元の生活へ戻るための支援」まで見据える必要があることを強く感じました。

被災された方々の一日も早い生活再建を願うとともに、今回の経験を今後の看護実践と災害対応力の向上につなげていきたいと思います。







令和 8 年熊本地震 医療班派遣活動報告

DMAT 業務調整員　診療情報管理室　畠中　祐介

1. 派遣概要

令和 8 年 7 月 28 日に熊本地方を震源とする震度 7 の地震が発生した。7 月 31 日、国立病院機構九州グループより医療班派遣の要請があり、当院は 8 月 11 日から 8 月 15 日まで活動を実施した。派遣メンバーは医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 1 名であり、私は業務調整員として参加した。

2. 業務調整員の役割

業務調整員の主な役割は、医師や看護師が医療活動に専念できる環境を整えることである。直接的な医療行為は行わないが、現場調整や後方支援を担い、被災地においても医療スタッフが円滑に活動できるよう支援する。

3. 活動内容

荒尾市内のホテルを拠点とし、八代市までレンタカーで移動した。八代市内では道路に段差が多く、安全運転に留意する必要があった。毎朝 9 時に八代市役所内の避難所活動拠点本部（日赤）へ集合し、当日のミッションを確認した後、国立病院機構本部との情報共有を実施した。当院の主な活動場所は八代トヨオカ地建アリーナ（八代総合体育館）であった。

4. 各職種の活動

医師は救護所での診療業務、看護師は避難所巡回および健康観察を担当した。業務調整員である私は、環境整備や関係機関との調整業務を担った。避難所には約 300 名が避難しており、新型コロナウイルス感染症対策として、徳洲会病院の看護師と協力しながら体育館内の消毒・清掃を実施した。また、施設･避難所等ラピッドアセスメントシートを作成し、被災状況や人員、物資、ライフラインの状況を記録した。

5. 課題への対応

避難所では特にトイレ環境に課題が認められたため、避難所活動拠点本部の指示のもと改善策を検討し、状況報告を行った。また、避難所全体の物資倉庫と連携し、必要物資が不足している避難所への調整および支援要請を実施した。

6. 所感

今回の派遣を通じて、多くの学びと貴重な経験を得ることができた。被災者の方々からは温かい労いの言葉をいただき、大きな励みとなった。派遣した 4 名全員がそれぞれの責務を果たし、医療支援活動に貢献できたと感じている。業務調整員として医師や看護師を支え、「縁の下の力持ち」として医療を支援する重要性を改めて認識した。これは私の大きな誇りであり、今後の活動にも活かしていきたい。







指宿医療センター × 指宿南九州消防組合
～地域の救急医療をより良くするために～



指宿医療センター　事務部　経営企画係長　中別府　稜

指宿医療センターでは年に２回、指宿南九州消防組合と合同で、救急救命技術向上のため事後検証会を開催しています。現場での判断や処置、病院選定などについて振り返り、地域の救急医療の質向上を目指しております。今回は、令和８年度第１回目の事後検証会を開催しました。

症例としては、循環器疾患と脳梗塞症例についてでした。循環器疾患の症例では搬送先の選定で検証が必要な事例でありました。救急車の陸路かドクターヘリの空路か判断するのが難しい場面もあったようです。脳梗塞症例では典型的な症状がなく脳梗塞の確定診断ができず近隣の脳疾患対応ができる病院へ搬送か一次脳卒中センターへ搬送すべきかこちらも判断が難しい症例でした。このように検証が必要な症例はたくさんあり、病院と消防が連携する大切さを改めて実感しました。

今後もこの事後検証会を継続し、指宿医療センターと指宿南九州消防組合が密に連携し合い南薩地域の医療を支えていきたいです。









災害への備えを学ぶ

～ 令和８年度新人・職員合同研修会を開催しました ～

指宿医療センター　事務部　庶務班長　庄内　孝

令和８年10月３日、休暇村指宿において「令和８年度新人・職員合同研修会」を開催しました。今年度のテーマは「災害時対応と対策」です。新人職員をはじめ、多くの職員が参加しました。

近年、全国各地で地震や豪雨などの自然災害が発生しています。医療機関には、患者さんと職員の安全を守りながら、必要な医療をできる限り継続することが求められます。今回の研修は、実際に被災した病院の経験から学び、当院の災害対応を自分たちのこととして考えることを目的に企画しました。

研修前半では、昨年度まで当院事務部長を務められ、現在は熊本南病院事務部長を務めている内枦保雄一事務部長を講師としてお迎えし、熊本地震発生時の病院対応や、その経験を踏まえたBCP（業務継続計画）の再構築についてご講演いただきました。

講演では、地震発生直後の状況や情報収集の難しさ、患者さんや職員の安全確保、病院機能を維持するための対応などについて、実体験に基づくお話を通して、災害は決して他人事ではなく、日頃からの備えや訓練が重要であることを改めて学びました。参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。



熊本地震発生時の病院対応やBCPの再構築について学びました



各職種の視点から意見を出し合いました



BCPや災害対策マニュアルを確認しながら検討

多職種で考える、当院の災害対応

後半は、多職種で構成された５つのグループに分かれ、グループワークを実施しました。当院の BCP や災害対策マニュアルを確認しながら、震度 6 強の地震が発生した場合を想定し、発災直後の安全確認や情報収集、災害対策本部への報告内容などについて意見を出し合いました。

普段は異なる部署で働く職員同士が、それぞれの立場から考えや課題を共有することで、「他部署がどのような対応を必要としているのか」「自部署はどのような役割を担うべきか」など、新たな気付きが生まれる機会となりました。また、多職種で連携することの重要性や、限られた人員・設備の中で病院機能を維持することの難しさについても理解を深めることができました。

今回の研修を通して得られた学びや気付きを、今後の BCP や災害対策マニュアルの見直し・充実、さらには日頃の防災意識の向上につなげていきたいと考えています。当院では今後も継続的に研修や訓練を実施し、災害時においても地域の皆さまへ安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいりたいと思います。



話し合った内容を発表し、各班の気付きを共有

研修を通して

- 安全確認の重要性
- 正確な情報共有
- 職種を越えた連携
- 平時からの備え



研修を終えた参加者による集合写真

指宿 菜の花通信 No.308

総合診療内科医師　中村一彦

田舎医者の流儀（282）・・・ノーベル賞　硤合博士



10月はノーベル賞が発表される、今年も日本人の受賞があった。2026年のノーベル化学賞に東京理科大名誉教授の硤合憲三（そあい・けんそう）さんが、生命の起源に迫る「不斉自己触媒反応」（硤合反応）を発見した功績により受賞が決まった。はっきり言って難しくてその中身は理解できないでいる。ただ3年連続の受賞を素直に喜びたい。湯川博士が1949年ノーベル物理学賞を得て以来日本人（日本国籍）のノーベル賞受賞者は31名、一団体（被団協）である。湯川博士の受賞した年、私は5歳でよく覚えていない。湯川博士の受賞後6年後に朝永信一郎博士が受賞、1900年代50年間で日本人受賞者は8名であった。2000年以降は26年間で23名1団体で、単純計算すると5倍以上だ。ノーベル賞は「生理学・医学賞」「物理学賞」「化学賞」「文学賞」「経済学」があり経済学賞だけは日本人受賞はない。

戦後の受賞者数では日本はフランスを上回る第4位である。今世紀（2001年以降）に入ってからは、米国の91人に次ぐ22人と英国21人を上回る世界第2位であり、フランスの15人、ドイツの12人をかなり上回っている。最近の日本人の受賞実績が世界の中でも目立っていることがうかがえる。受賞には至っていないが多くの日本人科学者が候補になっているのは喜ばしい。しかし、日本の科学技術は大学の予算が大幅に減額され、研究者も減少している、目先の成果を上げないと研究を続けることが難しくなっている、多くの識者の指摘しているところである。今後の研究が進めるためには真剣に受け止めるべきである。

ノルウェーのノーベル委員会は9日、2026年のノーベル平和賞をナビ・ピレイ元国連人権高等弁務官に授与すると発表した。ノーベル委員会は「戦争犯罪、人道に対する犯罪、ジェノサイド（集団殺害）が訴追されることに重要な役割を果たした」と述べ、「平和と国際法の促進のための貢献」を授賞理由として挙げた。ICCをめぐっては米国やロシアが敵視し、特に米国は「解体する」と宣厳している。今回の受賞は国際刑事裁判所支配の重要性を訴える、強いメッセージとなる。戦争犯罪に対する抑止力をする国際世論の進展を期待したい。

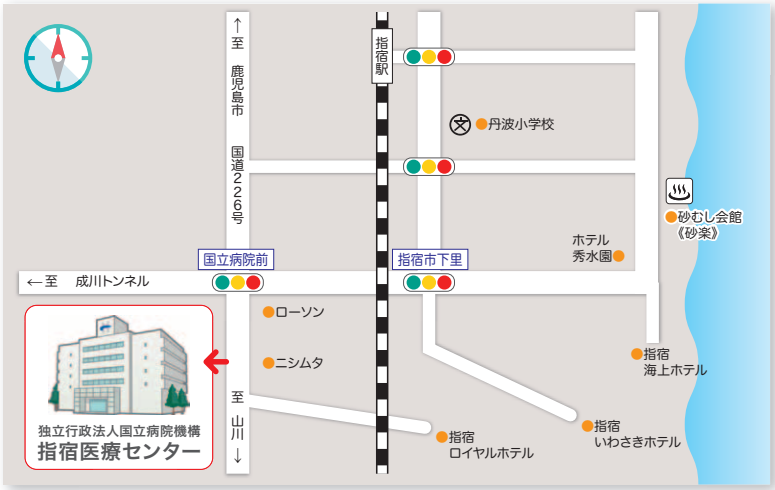
ウクライナを侵略しているのはプーチンであり、ウクライナの子供をロシアに連れ去り国際刑事裁判所ICCは逮捕状を出している、国際法に照らした当然の処置である。国連人権理事会の独立調査委員会は昨年9月、イスラエルがガザでジェノサイドを行ったと認定し、ネタニヤフ氏個人についても2024年11月、ICCが戦争犯罪や人道に対する罪の疑いで逮捕状を出している。これもまた心ある国際世論は是としている。

指宿医療センターＨＰ菜の花通信
https://ibusuki.hosp.go.jp/topic/nanohana-tweet/

外来診療担当医一覧

令和８年10月１日現在

診療科等			月	火	水	木	金	備考
循環器内科	午前		大井 水田	吉重	鹿島 水田	鹿島 大井	川畑 吉重	午後診療：14時～16時（水曜日の鹿島先生のみ行っております）
総合診療内科	午前		水田	田中	（休診）	花田	中村	
血液内科	午前		花田			有馬		
消化器内科	午前		豊留	（休診）	若松	豊留	小川	
肝臓内科	午前			大重		大重		
小児科	午前		荒武	田邊	田邊	田邊	田邊	
	午後	外来	荒武	荒武	田邊 荒武	荒武	田邊 荒武	午前診療：8時30分～11時　午後診療：14時～16時 予防接種　（毎週月曜・火曜・木曜）受付14時（要予約） 一ヶ月検診　（月・木）受付13時（要予約） 3～4・7～8・9～11ヶ月・1歳児健診（火曜）受付13時45分（要予約） ※毎月第3水曜日は14時半～15時の間で外来を一時中断させていただきます。
		予防接種	田邊	田邊		田邊		
		健診	田邊 荒武	田邊 荒武		田邊 荒武		
外科	午前		（手術日）	宮薗 鮫島 加美	宮薗 鮫島 加美	（手術日）	予約外来 （手術日）	
泌尿器科	午前		枦木	（手術日）	枦木	枦木 （再診のみ）	枦木	
腎臓内科	午前		外部医師				外部医師	17番診察室にて診察します。　10：00～（要予約） ※第1、3、4金曜日　第2月曜日
産婦人科	午前		永野	永野	（手術日）	中田	永野 弓指 中田	1ヶ月健診　（月・木曜日：要予約） 2週間健診　（月・火・木・金：要予約） 午後診療受付　（水・金曜日以外）13時30分～15時（再診のみ） 母乳外来　（毎週火・木曜日） 母親学級　（毎月第2・3水曜日）
	午後		弓指	中田 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	弓指 助産師 母乳外来	（手術日）	
眼科	午前		尾辻 米満	尾辻 米満	尾辻 米満	尾辻 米満	尾辻 米満	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。
	午後		（手術日）	（手術日）	（手術日）	（特殊外来）	（特殊外来）	木曜・金曜の午後は特殊外来（視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など）
専門外来	午前		呼吸器内科	小児外科 小児循環器		脳神経外科		呼吸器内科　毎週月曜日　予約制 呼吸器外科　毎月第2・4木曜日（14時～16時）予約制 小児循環器　毎月第4火曜日　予約制 小児外科　偶数月第3火曜日（9時45分～14時30分）要予約 もの忘れ外来　第2・第4水曜日（14時～16時）要予約 脳神経外科　毎週木曜日（9時～11時・14時～15時30分） 心臓血管外科　毎月第1・3木曜日（14時～16時）予約制
	午後		呼吸器内科	小児外科 小児循環器	もの忘れ外来	呼吸器外科 脳神経外科 心臓血管外科		
内視鏡検査			若松 小川	豊留 若松 小川	豊留 小川	藤井 若松 小川	赤崎 豊留	第2・第4木曜日　藤井
整形外科	午前				織田		織田	水曜日・金曜日　受付：（織田先生）9時～11時・14時～15時00分　予約制 鹿大医師（水）・（金）午後　受付：14時～16時00分
	午後				織田・鹿大医師		織田・鹿大医師	



JR の場合

JR指宿枕崎線に乗車頂き、指宿駅で下車して下さい。
指宿駅から山川行バス（鹿児島交通）にて「指宿医療センター前バス停」（約10分）で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

バスの場合

JR鹿児島中央駅前（鹿児島市）から山川桟橋行バス（鹿児島交通）にて「指宿医療センター前バス停」で下車して下さい。当院の正面玄関前に停車します。

自動車の場合

鹿児島市からは、産業道路を進んで国道226号線を山川方面へ進んで下さい。
指宿医療センターは国道沿いにあります。

○受付時間　午前8時20分～午前11時00分
○診療時間　午前8時30分～午後17時15分
○休診日　土・日・祝祭日・年末年始　※急患の方は随時受付いたします。
○電話番号　0993-22-2231

発　行：独立行政法人国立病院機構　指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
ＴＥＬ：0993-22-2231（代表）
ＦＡＸ：0993-22-2772（地域医療連携室）
ＵＲＬ：https://ibusuki.hosp.go.jp
印　刷：株式会社陽文社